

山行報告

砥峰高原～暁晴山縦走（実粟50山）

日 時：11月15日（日） 参加者数：22名

参加者：A班—L：須増 SL：中嶋(則) B班—L：西村(知) SL：本多(裕)

A班：阿蘇・狩集・切貫・荘所・竹内・金島・平山・待場・山崎・渡邊（健）

B班：足立（光）・足立（美）・内海・開・藤田・三木・森川・森永

行動記録：高砂駅7：33～宝殿駅7：48～砥峰自然交流館8：55～砥峰自然交流館
9：25～砥峰高原展望台9：55～暁晴山山頂11：45—12：30～峰山
高原ホテル13：00—13：05～（バスで移動）～夜鷹山登山口13：15～夜
鷹山山頂13：40—13：45～夜鷹山登山口14：05—14：15～（バス
で移動）～峰山高原ホテル14：25—15：20～宝殿駅16：25～高砂駅
16：45

★ 晩秋の砥峰高原から暁晴山、夜鷹山へ

渡邊(健)

天候が心配されたが、参加者の日頃の行いが良いせいか願ってもないように晴れ渡り、気温も冷涼になり、これまでのように汗にまみれることもなく、素晴らしい山行となった。（やはり天気が良いことが、山行きの第一条件であることを皆で再認識した。）

これからは、冬に向かって一直線であり、山行も寒さに耐えつつとなるが、今回は、本当に気持ちの良いものであった。

参加者の多くは、砥峰高原に行ったことがあるそうで、人によっては40年ぶりという人も。砥峰高原は、西日本有数のススキの大草原であるが、時期的には少し遅かった。その代わりに、杉の緑と紅葉、黄葉の妙を楽しむことができた。

マイクロバスでの往復は順調で、それぞれ1時間余りであった。「とのみね自然交流館」には一番乗りで9時前には到着した。入念にストレッチをして出発した。

最初に少し迷ってしまっただ直ぐに引き返したが、家族連れにも気軽に楽しめるハイキングコースゆえに、色々な分岐があって通常の登山路よりも、かえって複雑で迷いやすいようである。

初心者である私には、きつかった先日の七種山周回とは違い、主に平坦な道を進むハイキングとなった。（標高差270m程度）登り道といえるのは、最初の砥峰高原での東屋まで・暁晴山山頂までの最後の舗装路・夜鷹山登山道の三カ所くらいで、晩秋の落ち葉をカサカサ踏みしめての気持ちの良いハイキングであった。

雨が続いたために、ぬかるんだ道が多々あり靴が汚れたことはあったが、実にさすがしく楽しい山行となった。登り道では暑くなることもあったが、これまでの真夏や初秋



の山行とは違って、肌寒さも感じるほどで、汗に悩まされることもなく快晴と相まって快適そのもの。

暁晴山からの但馬、播磨の山々や播磨灘の眺望、夜鷹山の（いささか傷んだ）木製展望台からの太田池の眺め等にも恵まれ満足の行くものであった。もっとも暁晴山頂のアンテナ群は興ざめではあったが。

途中、日がほとんど当たらず鬱蒼としたスギ林を横目にして進むことがあったが、木々の手入れが行き届いていないようであったし、夜鷹山では、鹿よけのネットが、何重にも設置されており、自然との共生の問題も考えさせられた。計画よりも早く山行が終わったので、峰山高原ホテルに戻ってコーヒー（ビールの人も）を飲んで疲れをいやして帰路についた。

通常の（厳しさ満載の）登山とは違ってハイキング気分の本当にリラックスできた楽しい秋の一日を満喫できた。

車でほんの一時間も行けば1000m級の山々に簡単にアクセスできるこの地に住むことの幸運に感謝しましょう。

★ 砥峰高原から暁晴山、夜鷹山登山

開

宝殿駅から「みなと観光」のバスに乗り、砥峰高原に、予定より早めに着いた。

朝の気持ちのいい空気を胸一杯すって、「とのみね自然交流館」を出発。終わりがけのススキの野原を行きかけたが、道を間違えたとのことで引き返し、展望台を目指し再出発。落ち葉を踏んで歩いて行くと、暁晴山の頂上手前のトイレに着いた。

トイレ休憩の後、少しく暁晴山頂上に。

頂上からの眺望は、素晴らしく、私のまだ知らない山々が360度広がって見える。（これから、一つ一つ登って名前を覚えていきたい。）風が強かったので岩陰で、お昼をし、荘所さんの奥さんからの、おいしい差し入れを頂いて、お腹もパンパン。（ごちそうさまでした。）

ゆっくりとした舗装道路を下り、峰山高原ホテルに到着。バスに乗り夜鷹山の登山口へ。鹿よけの網をくぐりながら、30分位の登りで夜鷹山の頂上。

予定より早く山行が終わったので、峰山高原ホテルに、コーヒーを飲みに入ったが、皆の登山靴に土が付いていたので、恐縮した。今日の山行は、秋の気持ちの良いハイキングという感じだった。

須増さんが、初めてリーダーをされたということで、資料とか説明とか、いろいろお気使いして頂き、本当にありがとうございました。これからも、よろしくお願いします。

東山周回コース（宍粟 50 山）

日 時：11月23日（月）祝日

参加者：L：舩賀 清 SL：山本正一 参加者数：19名

：阿蘇・足立（光）・金島・狩集・切貫・塩津・清水・中嶋・長谷川（易）・原田・開・
巻藁・増田・三木・森川・待場・山崎

行動記録：高砂8：10・宝殿駅8：20～ながさわ9：17—9：30～東山温泉10：00
—10：16～登山口10：35～東山頂上11：40～12：23～休憩12：55
—13：00～東山温泉入浴13：30—14：30～波賀城
14：50—15：20～道の駅15：30—16：00～高砂17：00

★ 東山山行に参加して

中嶋(則)

秋晴れの下、乗用車に分乗して8：00山電高砂駅より1台、JR宝殿駅より4台で、
姫路バイパス・29号線経由で、波賀町東山温泉まで走る。

私達の車（高砂出）に10分遅れで宝殿出発車が、車も疎らな温泉駐車場に10時頃到着した。ストレッチ体操後、19名が舩賀さんを先頭に出発した。

しばらくは舗装道路が続く。この地は東山名水として知られるラドン鉱泉で、100円/200で販売されている。頂上に通ずる登山道も良く整備されており、2人並んで話しながら歩く、登山と言うより、ハイキングである。頂上近くのアケビの群生地を過ぎると、東山の頂上（1016m）に到着した。出発してから1時間半ほどで楽に簡単に着いたという感じであった。

丸太で組んだ展望台があり、その下に、元会員だった人がおられ、“もう少し早かったら雲海が見られたのに”と言われた。

全員で写真を撮り、三々五々に分かれ、昼食休憩する。昼食を摂る他のグループも来た。氷ノ山や後山が眺望できた。

少し下った後、尾根道を西に進む。落葉が積もりジュウタンの上を歩くようである。木々を伐採した所もあり、苗木が植えられていた。鹿ヨケか網で囲まれている。

木立も、松から杉に代わり、整備の整った尾根道が続く。展望の良い所に、ベンチがあり、休憩する温泉施設のメイプルプラザが一望できた。

道は木片チップを固めた、柔らかい道となり、13時30分東山温泉に帰り着いた。少し汗もかいたので温泉に入る。わりかしコジンマリとした風呂であった。

帰り道に波賀城史跡公園に立ち寄る。山頂近くまで車道があり、その後、山道を城跡まで20分程歩く、冠木門が有り、木の階段を登りきると展望が開け小天主（学習資料館）があった。

眼下に波賀町の町並み、29号線が続いている。この城は、赤松氏の下で、13世紀の中頃より、地頭として来た中村氏が、羽柴秀吉に滅ぼされるまで20代続いていたと言われている。秋は山粧うと云うが、周りの山々が紅葉し、赤、黄、茶、緑色と賑わい綺麗だった。途中、波賀南の道の駅で買い物を楽しんだ後、17：30無事高砂に到着した。楽しい1日を有難うございました。





原田(美)

宍粟50名山の東山に、もはや幽霊会員同然の私ですが、勇気を出して、大きな体を小さくしながら参加してしまいました。こんな私に、親切にして下さった会員の皆さん本当に有難うございました。素晴らしい天候に恵まれ、紅葉も美しく、東山は木のチップを固めた歩き易いすてきな登山道でした。さくっさくっ、ふわふわと気持ちの良い落葉の中を歩き、嬉しかったです。尾根道は、左右に横たわる宍粟名山を眺めながら歩きました。そして、東山温泉のジャグジーの中で首までつかって、実は、内心（・・・幸せ～・・・）と、かなり感動していました。帰りには、波賀城見学までさせて頂き、本当に楽しい一日をすごすことができました。幽霊になってしまったら、この感動は味わえない・・・とつくづく思いました。

これからは、できるだけ参加させて下さい。どうかよろしくお願いします。

納山会 若杉峠～峰越峠&日名倉山

日 時：12月5日（土）～6日（日） 参加者数：23名

参加者：A班—L：砂川(延) B班—L：山本(正一)

A班：大谷・貝塚(文)・狩集・切貫・中嶋・森川・渡邊(俊)

B班：井上・上田・河合・北川・澤田(律)・荘所・須増・開・平山・西村(知)
舩賀・増田・待場・渡邊(健)

行動記録：

12/5：宝殿8：33～高砂8：53～道の駅しんぐう9：50—10：00～若杉原生林駐車場11：10—11：25～昼食12：13—12：40～三国平分岐13：37～三国平登山口（峰越峠）14：14—14：29～こぶしの里後山着15：05～宴会17：30—20：30

12/6：ストレッチ8：55～こぶしの里後山発9：18～養魚場（奥海峠）9：31～ベルピール10：10～日名倉山頂10：42—10：57～ベルピール11：20～（新郎新婦祝福）12：10～愛の村温泉12：24（入浴、昼食）14：00～道の駅しんぐう15：05—15：15～宝殿16：00～高砂

★ 森林浴の若杉原生林と二人の門出を祝う日名倉山

貝塚(文)

12月の納山会では、ここ4年程降雪に会い、2005年には数十年ぶりの寒波による積雪で予定の後山縦走が出来ず、日名倉山への山行に変更したが、積雪が多く周辺の雪道散策のみに終わった事があった。

今年も西日本では、11月3日に冬型の気圧配置が強まった影響で厳しい冷え込みとなり、大山の初冠雪も昨年より6日も早かったので、納山会では、また雪山の登山になると覚悟を決めていたが、師走に入り、気温が下がらず、今年は暖冬の様であり、天気予報で

は、当日の午前中は曇りで午後より雨との予想であった。

早朝、ザックに軽アイゼンを詰め込み、高砂駅前より送迎バスに乗車、曇り空であったが車が進むにつれ空は晴れ、このままだと天気予報が外れそうな予感がしてきた。

車中では、賑やかな雑談が続き、左手に12月20日山行予定の新龍アルプスの紅葉を見ながら「道の駅しんぐう」に到着。

折よく新宮青空祭りが催され「ふれあい市場」で無料の甘酒と、差し入れのおかきや、焼き芋を食べて体を温める事が出来た。



若杉原生林の駐車場に着き、下車して身支度を整え、ストレッチをしてから中国自然歩道の苔むした石畳を、溪流沿いに進んで行くが、付近の石は苔で覆われて、湿原の状態を表していた。

原生林では、樹林に立派な説明文が取り付けられて、ブナ・カエデ・サワグルミ・トチノキ・ホオノキ・ミズナラ・ナツツバキ等の巨木が生い茂り、長い年月を経て作られた自然を感じさせた。

この湿原地帯から流れ出る水は、吉井川水系吉

野川の源流地点と云われ、所々より水が流れ出ている。

この沼地を通り過ぎると、岡山県と鳥取県との県境である若杉峠に到着。地蔵尊に一礼して登山道を進んで行くと、展望が開け氷ノ山を見る事が出来た。登山道はアップダウンを繰り返し、廃小屋の前を通り林道のススキノ原に出て昼食を取る事にした。

昼食後、小屋の前を通り山道に出て登って行くと、鹿のフンや爪の痕跡が多く散見され繁殖の多さを匂わせていた。

空は曇り出していたが、アップダウンを繰り返し古木階段を登って行くと、展望が開けて三室山が見えて来た。

ここより1124mのピークを登って下り、吉川林道を横切って登り返すと、時折、木々の間から日差しがあり、心地良い風とともにクッションのある落ち葉の上を踏みながら進んで行くので歩き易くなり、三国平の分岐点に到着していた。

その先を少し行くと、千種川支流、天児屋川源流と云う標識が設置されていた。

この登山道は「源流探訪ツアーコース」の標識が所々に置かれてあり、ここを下ってからブナとスギ林で小休止を取った。

小休止後、登山道を進んで行き、ブナの大木が林立する台地を通りスギやブナの倒木を見ながら下ると、右側はヒノキ、左側はスギ林が現れ、源流ツアーコースを登り返す、その先は急坂となり、階段の丸太は古くその留め金具が突き出ている所があるので、足元に十分注意しながら下山して三国平登山口に辿り着いた。

近くにある東屋で小休止後、舗装道路を下山中5分程歩いてから送迎バスに出会い乗車するも、直ぐに雨が降って来たので、全くラッキーな出会いであった。

宿泊先の「こぶしの里後山」に着き、入浴して疲れを癒してから午後5時30分より宴会が始まり、詩吟、和太鼓、ツインによる小話演技、カラオケ、軽快なリズムに乗る踊り等、多種多芸の出し物で宴会が盛り上がり、お互いの親睦を高める事が出来た楽しい忘年会であった。

翌朝は、曇り空で気温も下がり寒く感じられたが、今年の年末で閉館となる「こぶしの里後山」をバックに記念撮影をして、別れを惜しみながら、赤い実を付けたナンテンや、赤・ピンク色の花を咲かせているサザンカに別れを告げて出発。

日名倉養魚場の前を通り希望峠で下車。アスファルトの林道を登って行くと、スギやヒノキの植林の間を通り、ススキノ原・ヘリポート・県民参加の森づくり等を通り過ぎて、カシワノキの落ち葉を踏みながらベルピール自然公園に到着した。

ここよりの展望が素晴らしく後山、船木山、駒ノ尾山、那岐山等を見る事が出来た。

このベルピールの建物の横を通り、遊歩道を登って行くと付近はススキが生い茂り、手入れされた木の階段を更に登って行き、ヒノキやスギの植林地帯を通り抜けると、コナラやカラマツが現れ、三ノ丸、日名倉山の頂上に着いた。頂上には小さな祠と、一等三角点あり、展望は悪いが少し移動すると、北方向には後山、北東方向には三室山や微かに氷ノ山、南方向には瀬戸内海が見え、東方向の眼下には、千種の町並みが見渡せて素晴らしい景観を味わう事が出来た。

頂上を後にして下山し、ベルピールに到着すると、支配人から、「いまチャペルで結婚式が行われており、十数分後に式が終わり、新郎新婦が建物より出てきて、この通路を通って階段を上り、リュバンベールに吊るされた、日本一の《愛の鐘》を鳴らすので、祝福してやってほしい。」と動員を要請された。



フラワーシャワーを渡されて待機していると、若い新郎新婦が現れ、高御位山遊会の人達で作ったロードを進む中、両側よりフラワーシャワーを浴び、助け合って階段を上って行き「愛の鐘」を打ち鳴らしたので、その響きを聴きながら、二人を祝福する事が出来たのは、私達にも記念すべき佳き思い出となった。

送迎バスに乗り込んで「愛の村パーク」に立ち寄り、入浴して汗を流し、ゆっくり昼食を取ってから土産物も買い、帰路に着き、無事高砂に到着。

この度の納山会は、二日間とも天候に恵まれて、森林浴と山並みの絶景を堪能し、若い二人の門出を祝う、記念すべき一ページにも立ち合い、人と人との触れ合いが出来る良い機会となった。

ちょっと一言

平山(俊)

清水が静かに流れる整備された緩やかな登山道をゆっくりと登りました。高くそそり立つ樹林、ブナかミズナラかも分からぬまま登り続けました。頂上の平に近い道には、分厚い落葉が積もり、その上をザーザーと音をたてながら歩いて、まさに原生林であると感じました。夜の宴は、たいへん盛り上げていただきました。

皆さん、芸が達者であると聞いていたとおりでした。

日名倉山、一気に開けた山頂、つい、「おおーいいなー」と声を出してしまいました。船木山・後山・三室山等絶景を見ることができました。お天気ありがとう。そして、皆さんありがとうございました。

切貫

山行の日が楽しみの私ですが、今回は、主人が出張中であり、むさし(犬)の散歩の事や出産した娘が退院する日でもある為、とても悩んだ末での参加でした。

若杉山と日名倉山は、夜のイベントに体力を残しておく為か歩きやすいコースでした。何事にも目一杯、取り組みたい私は、フルマラソンを完走したくらい、夜のイベントではアルコール無しで楽しみました。

そして今回の大ハプニングは、可愛い新郎、新婦に花吹雪のエールを送る事で私達にも幸せを貰えた事でした。

山の景色、夜の楽しみ、結婚式と充実した山行きだったので思い切って参加して良かったです。皆さん、有難うございました。

★ 登山学校に夢を架けて

松下

高御位山遊会に入会后、山岳雑誌を読む内に、アルパイン的な山行を夢に描くようになりました。しかし、会はハイキング中心です。アルパイン的な山の行き方を学ぶにはどうしたら良いかと考えていました。

昨年の秋、岩稜帯歩きでの身のこなしを学ぶ為に、という理由で初級岩登り教室に参加したことが発端になりました。ですが、ここでは岩登りの入り口に立っただけにすぎず、この後クライミングを継続する機会もなく、中級登山学校の受講資格には全く足りませんでした。一度はクライミングの実力をつけてからと、あきらめたのですが、会活動の活性化も含めた登山技術のレベルアップを目指して、あきらめきれず、受講を請願しました。多分、その熱意で入れていただけたかなと思っていますが、技術面で最初から中級のレベルを落とした問題児であった事は否めません。

読図の座学では、ハイキングリーダー養成の4講座の内容を、2時間きりの座学でやってしまいます。スピードが速く、分からないまま次の課程に移ります。気象講座も同様で、スピードもレベルも想像していたより数段高いので猛勉強しなければ理解できません。ですが、座学、実技、レポートと追われ、自分のものにならないまま、次の課程に入ります。

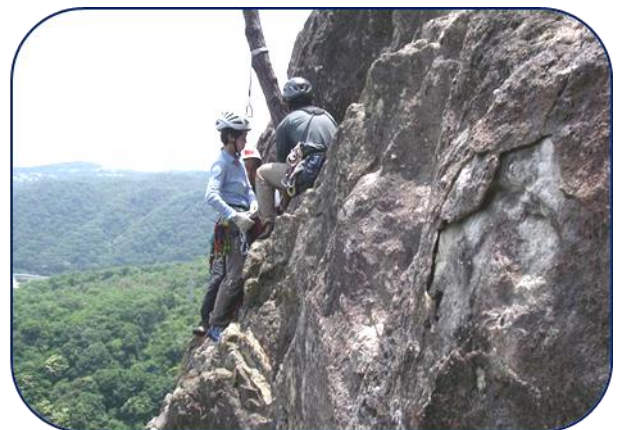
習得できなかった部分は、どの課程にも多々あり、修了後の目標となる課題となりましたが、これこそ登山学校へ求めて入った大切なものなのです。六甲でのボッカ・トレーニングから、まだまだ体力が足りないのが分かりました。アルパインをするには登攀の技術だけでなく、優れた体力が必要です。

一回目のボッカ・トレーニングは5月、芦屋川から六甲最高峰を経て、有馬までの往復です。最初から無理をしないようにとの注意を受けて18kgに減らしました。

2回目のボッカは6月、鶴越から掬星台まで、

20kgボッカで登りましたが、アップ・ダウンのきびしいこのコース、完全にバテてしまいました。

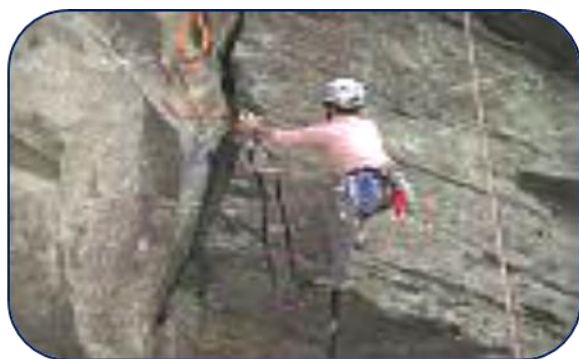
3回目のボッカトレは7月、アップ・ダウンの少ない芦屋川から塩尾寺まで、この時は20kg背負って遅れずに歩けました。



6月からは中級の核心部、マルチピッチクライミングが始まりました。クライミングは私の最大の弱点で、ロープの結束、支点の構築、ダブルロープでのシステムの理解が出来にくく、ロープワークの流れが分からずに、もたもたして時間がかかってしまいます。講師の方々は熱心に指導してくださるのですが混乱してしまって、タイブロックやプーリーを使ったレスキューシステムになると、ますます覚えられませんでした。悔しい事に経験不足からシステムの理解が遅く、速く正しくセットできません。アルパインではスピードも安全につながる大事な要素なので、家で復習するのですが???の連続でした。

9月になって、クライミングの補習をしていただきました。前回は雨で登れなかった雪彦山行でしたが、今回は大杖さん、河尻さんと組んでいただいて、初めてのマルチピッチ、東稜ルートに登らせていただきました。1ピッチめ、足をすべらせてワン・テンションしてしまいました。

東稜ルートの登攀は、中級の受講条件なので、なんとしても登りたかったのです。東稜から仲間が正面壁を登って行くのが見えます。O 講師から、「次はあそこへ行くんですよ。」と言われましたが、自信のなさから複雑な気持ちでした。



10月3日～4日の修了山行先は、雪彦山に決まりました。お天気が心配されましたがきれいに晴れました。初日に大石さん、中原さんと組んでいただいて、東稜ルートに登らせていただきました。2回目でしたから、落ち着いて登れました。

2日目は、大石さんと2人パーティーでスベリ台凹角ルートに登らせていただきました。地蔵正面ルートのデビューでした。東稜から入る正面壁で一番易しいルートかと思いますが、皆が登っている時、あんな垂壁・・・とても登れないワ・・・などと思っていました。登る直前までずっと緊張していましたが、しだいにコチコチの身体もほぐれてきました。地蔵正面壁のレッジに立った時は、これまでにない高度感から、足がすくみそうになるような感覚と同時に空中散歩の醍醐味を味わいました。

クライミングは初心者同然の私でしたが、講師の方々のフォローと受講仲間のおかげで、ここまで挫折せずに続けてこれました。

修了式では今後の精進を誓い合い、中級の目標達成へ向けて、リードトレなどと称して、現在も皆で取り組んでいます。

ネパールからの報告 (2)

★ アンナワン (Ngawang Sherpa) のこと

砂川(延)

今回のトレッキングで世話になったガイド・シェルパについて、どうしても紹介しておきたい。

カラパタール、チュクンリへのトレッキングに取り組むに当たり、ガイドについて、メラピークの玉井進吾郎（県連盟副会長）氏にお願いすると、直ぐに紹介をされたのが、**ナワン**だった。それはそのはず、彼とは20年来の付き合いとのこと。

年齢は51歳くらいだと自称している。ネパール歴で2066年、西暦で1958年だとか。

彼の話では、生まれたときの写真もないし、生まれても役所に登録する制度がなかったので、正式に何年生まれであるか分からないと云っている。だから「正確に何年生まれ」というのが不明なのが実情らしい。

兄弟は6人だったが、家が貧しく4人は亡くなり、今は兄と二人だけになってしまったそうだ。兄は生まれた村、(カトマンズからルクラへの街道筋のある村、村の名前は云ってくれたが理解出来なかった。再度確かめなかった。)で、親の跡をとり、牛を飼いながらの百姓をしている。

ナワンも、親父からは家の手伝いをするように云われていたそうだが、それを振り切って、無一文で25、6歳の時、故郷を離れカトマンズに出る。英語学校に2ヶ月通って英語を覚え、3年くらい旅行会社で働く。このトレッキング会社のポーターなどで働きながら、友人の大学生の下宿に転がり込み、彼に読み書き、算数を教わって独学で勉強する。(学校には行っていない。)

玉井氏の話では、「最初は片言の英語しかしゃべらなかった。」と云っていたが、多分、この頃ポーターとして玉井さんに会って、日本語を進められたのを縁に、カトマンズの日本語学校に5ヶ月間通い、日本語を習得する。

ナワンの話によると、学校からの帰りには、覚えた日本語を口で唱えながら歩き、下宿に帰っても夜12時まで勉強し、朝は4時に起きて勉強に励んだと。

そして玉井氏のメラピーク遠征の時には、少し日本語が分かるようになっていたそうである。その後にメラピーク遠征の参加者を中心に、今の「メラピーク KOBE」誕生に続くわけである。

私たちがナワンとカトマンズで最初に会った時、彼は、そんなにしゃべらなかった。後で分かったことだが、ここ何ヶ月かは日本人客がいなかったせいで、日本語を喋る機会が無かったため、直ぐには喋れなかったようだし、私たちの言葉にも少し戸惑っている様子だった。トレッキングしながら、沿道の風景や現地の生活風景など、いろんなことをしゃべるうちに、日本語の理解も段々戻ってきた様子で、道中彼の家のこと、人生のこと、国のこと等々を、よく話し議論した。



ナワンの家族は、妻と二人の娘の4人家族で、カトマンズの郊外に住んでいるようだ。ルク

ラからカトマンズに戻った日、ナワンが、家に案内して家族を紹介すると云っていたが、飛行機に載せた我々の荷物が載っていないというトラブルが発生し、時間がなくなり実現しなかった。

長女（プルワ・シェルパ）は、カトマンズの学校を出てから、東京にある早稲田日本語学校に留学させているとか。そのために、お金が沢山いると云っていた。

次女も高校生で、やはりカトマンズで日本語学校に通わせているそう。これはネパールの国情から、娘の将来の就職事情を考えてのことらしい。次女も高校を卒業すると、日本に行かせたいと願っていた。

トレッキングからカトマンズに戻ってきた31日の夜、カトマンズの日本料理店で歓送会を開いてくれた。ここに次女を連れて来ており、紹介してくれた。それは彼の仕事の都合で、我々が帰る日に、ホテルから空港まで、彼女に送らせるための配慮のようであった。

もし日本にナワンがいても、日本人として、普通に付き合える感覚を持った男だと感じられた。

会員だより

★ 私の人生計画

切貫

結婚後、生活に余裕の無かった私の励みは、60歳からバラ色の人生を送る事でした。

その為に60歳迄は、小説が書ける程の辛抱と忍耐の毎日でした。

お陰様で61歳の今、皆さんと山登りを又、韓流ビデオ、クイズの本、家庭菜園を楽しむ毎日です。こんな私に想定外の依頼があり、ボランティア等でも楽しく充実した毎日を過ごしています。

- ① 民生・児童委員
- ② 幼稚園評議委員
- ③ 交通安全協会交通委員
- ④ 加古川市環境委員
- ⑤ 子育て広場
- ⑥ 老人給食
- ⑦ ふれあいサロン
- ⑧ 統計調査委員

皆さんは、どんな人生計画をお持ちでしたか？

★ 音楽は友達

べんちゃん

公民館で毎週土曜日午後1時から5時までギターの練習をしています。

部員は、指揮者を含めて15名です。

唱歌、歌謡曲、映画音楽、クラシックなどなんでもやっています。

バラバラに練習しているのではなくアンサンブルですから指揮者のもと、各パート3～4名で3パートぐらいで合奏しています。

マンドリン・リコーダー・オカリナが入る時もあります。

練習中は、人生等色んなことを考えながらギターの音色にウットリし、まさに至福の時だなあと感じる時もあります。

ギター音楽を聴きたい又弾きたい方は誰でもいらしてください。

音楽は聴くのも奏でる（自分のように下手でも）のもよいものです。じょうずな人もたくさんいます。

べんちゃんは、12月13日の例会で、我々にオカリナの演奏を聴かせてくださいました。

